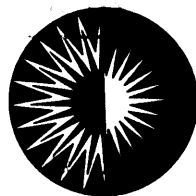




1981年1月 No.8

技術開発ニュース



研究紹介

限りある資源を大切に

- 大規模集中化システムにおける
系統間制御と検証方法の開発…… 2
- 新接地抵抗低減材による
接地抵抗低減工法の開発…… 3
- 光ファイバーによるケーブル部分放電
検出器の開発…… 4
- 配電線襲雷警報システムの開発…… 5
- 奥矢作第一第二水力(発)
総合制御システムの開発…… 6
- 小坂川水力(発) 余水路減勢工の水利設計… 7

- 大型通信鉄塔を有する建屋の
耐震性に関する研究…… 8
- 火力発電所の湿ダスト固化処理について…… 9
- 高放射線領域における移動式
自動監視装置の開発……10
- イソゴカイ分離器の開発……11

内外ニュース

- 第11回 I E R E 東京総会について……12

競争と協調で効率的な研究開発を

常務取締役 林 政 義

本年は、会社創立30周年に当る。当社の創立当時は、供給設備1,031 MWの水主火従型で、冬季の最大電力740 MWを記録し、需給は極度に逼迫した時代であった。一今日の供給設備15,527 MW、最大電力13,500 MWと比較すると隔世の感がある。一

その後、安価な石油と急速な技術革新を基盤とした高度経済成長時代に入り、電力需要の等比級数的増加と、これに対応する相次ぐ設備投資の中で、当社は設備の近代化と合理化を進めてきた。

一このような時代を背景として、40年6月電力設備全般に亘る総合的かつ効率的な研究開発を積極的に推進するため、創立10周年記念事業の一環として総合技術研究所が設立された。一

しかしながら、高度経済成長は、環境問題等に歪を生じ、さらに48年の石油ショックにより終りを遂げ、現在石油に多くを依存するエネルギー供給構造が根底から見直しを迫られていることは、御承知のとおりである。

このような情勢の中で私共は、電力の長期安定供給を確保するため、脱石油をはじめとし、電源立地の促進、電力原価高騰抑制など重要な課題に直面しており、これらの解決策として技術開発がますます重要性を増すと共に、より強力に推進していくことが必要である。

私は、昨年10月開催された I E R E (電気事業研究国際協力機構) の第11回東京総会に出席し、各国出席者との意見交換の中で、日本の電力技術が今や世界最高のレベルにあり、これは我国の電気事業が「競争」と「協調」を両立させた世界でも類をみない優れた体制をとっており、これが電力技術の発展に大きく寄与したからであると痛感した次第である。

これからの技術開発は、一般社会情勢をもよく見極めて、電気事業大の技術開発戦略の下に各社が切磋琢磨して効率的に進めていくことが肝要である。

終りに研究開発に従事する諸兄が今後ますます御精進され、立派な成果を挙げられんことを祈念すると共に、従来にも増して関係各位の御指導と御協力をお願いする次第である。